

査読者一覧 (五十音順, 敬称略)

池内和代	石上悦子	市原多香子	梅村美代志
大西美智恵	大森美津子	岡本亜紀	岡山加奈
越智百枝	掛田崇寛	片山陽子	木宮高代
金正貴美	越田美穂子	小林秋恵	坂本雅代
佐々木純子	佐々木睦子	清水暁美	清水裕子
鈴木千絵子	鈴木智子	祖父江育子	高野政子
谷本公重	辻京子	筒井邦彦	峠哲男
當目雅代	中尾優子	名越民江	野口純子
平井啓	平松万由子	藤井智恵子	藤井豊
舟越和代	前川泰子	松井妙子	松村恵子
實金栄	南妙子	森永裕美子	山居輝美
山下亜矢子	山本美輪	吉本知恵	渡邊久美

以上、48名の先生方に感謝申し上げます。

編集後記

看護系大学への追い風は続き、看護を志す若者が看護学を大学で学ぶことが普通になった。一つの元号が終わる今、平成のこれまでを振り返ると、長年の悲願であった看護教育の大学化が加速度的に実現した30年だったように思う。教育と研究は表裏一体であり、看護学という知の系譜に連なる研究は質量ともに増している。医療現場においては、新しい技術が開発・導入され、それに伴う倫理的課題も生じている。看護の本質や病む人に寄り添う心の大切さは不変であるが、時代のニーズに沿った看護の探求が必要とされている。実践の科学である看護の研究活動は、後進への義務であり、専門職としての使命であり、大袈裟かもしれないが、人類の未来に希望の種を蒔くことではないだろうか。

本年度、香川大学看護学雑誌は7編もの珠玉の研究論文を世に送り出すことができた。これは、自らの足元にある研究テーマに堅実に向き合い、世に生み出す努力をされた投稿者の熱意と、ご多用にも関わらず査読の労をお取り頂いた先生方の優れた見識によるものである。特に査読の先生には、看護研究の醸成を分かち合う仲間として、教育マインドで辛抱強くご指導を頂いた。本誌の発刊にご理解、ご協力をいただいた看護学研究者の皆様に、この場を借りて御礼申し上げたい。

看護の問いは実践の中で生まれ、その探求過程で一人一人の看護者の思索が積み重ねられてきた歴史を持つ。課題に満ちた現代社会にこそ、研究成果の積極的な発信が期待される。本誌もその活動の一翼を担う場として、さらなる発展を目指さなければならない。

2019年3月

(編集委員長 渡邊久美)

香川大学看護学雑誌編集委員会

委員長	渡邊久美	
委員	森永裕美子	筒井邦彦
	南妙子	石上悦子
	森河佑季	鈴木麻友